

松橋収蔵庫には、歴史・民俗・地学・植物・動物の5分野のほか、図書資料も収蔵しています。今回は、この図書資料についてご紹介します。

図書資料は約4万点。現在も登録作業中です。寄贈資料のほか購入したものがあります。日本各地の博物館などの報告書や図録もあり、職員の大

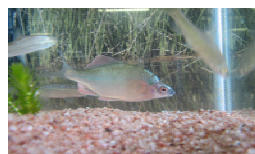
切な参考資料です。戦後から最近まで幅広く、研究に役立つ学会誌も所蔵しています。外国の資料もあり、特に図鑑などは鮮やかな写真や絵が多いので研究者でなくとも楽しめる内容です。

インターネットで便利に調べものができるようになりましたが、本のチカラはやっぱりあなごれません。県民の皆さんに一日も早く利用していただける日をめざして、今日もコツコツ、地道な登録作業が続きます。

松 橋 収 蔵 庫 夏 休 み イ ベ ン ト の お し ら せ
7月21日～8月12日

news! 夏 休 み 企 画 展 熊本の自然と文化 再発見！ (松橋収蔵庫にて 入場無料)

「熊本のタナゴ」
以前はたくさんいた小川の魚たちも、今は多くが絶滅の危機です。がんばって生きのびている「熊本のタナゴたち」を見てみませんか。いろんな種類がいますよ。



カネヒラ



ニッポンバラタナゴ



石 臼 (い し う す)



箆 編 み (む し ろ あ み)

「昔話の中の道具たち」
皆さんは「ふるさとの昔話」を聞いたことがあるでしょう。でも、昔話に出てくる道具を見たことがありますか？昔はみんなこんな道具を使っていたんですよ！

キッズミュージアム 今年もやります！



土日の体験イベント・バックヤードツアーに加え、今年は平日イベントも充実。理科と算数の楽しさを体験できるイベントもあります。是非ご参加ください。(※一部材料費がかかります)

算数パズル 理科おもしろ実験
昆虫採集 土器作り 草木染め
葉脈標本 どんぐりクッキー
など

詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.pref.kumamoto.jp/arinomama/>

熊本地域振興部文化企画課

松橋収蔵庫

〒869-0524

熊本県宇城市松橋町豊福1695

TEL 0964-34-3301

FAX 0964-34-3302



編集・発行 熊本県地域振興部文化企画課 熊本市水前寺6-18-1 096-333-2155 2007年7月〇〇日	熊本の自然と文化 松橋収蔵庫だより	VOL. 1
--	----------------------	-----------

松橋収蔵庫 収蔵品紹介①

民俗

日の本号二段耕犁

日本畜力犁の集大成



熊本県は明治時代に多くの篤農家が馬耕教師として全国に招待されるほど犁の操作技術や製作技術の先進地でした。明治後期に山鹿の天津末二郎氏が考案したマルコ犁は耕す深さや幅の調節が可能で近代的な犁の祖といわれています。その後全国的に犁の開発・改良が進む中、熊本市の東洋社が犁刃が二段になった二段耕犁を昭和22年に発明開発しました。この犁はそれまでの刃が一枚の犁よりさらに簡単に深く正確に耕すことができました。同年に山口・広島と九州9県連合で行われた馬耕競犁大会で格段の性能の良さを示し、その年の農業機械展覧会共進会博覧会で金牌を受賞、日本一の犁と呼ばれ瞬く間に全国に普及しました。しかし昭和30年代以降、国内農業は機械化が進み畜力犁はだんだん姿を消しました。

夏休み企画展「昔話のなかの道具たち」にて展示中！

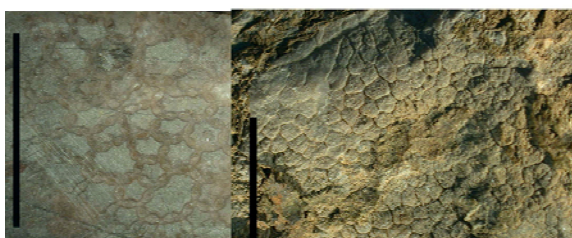
八代市坂本町深水川沿いには日本列島の中で最も古い地層の一つである古生代シルル紀(約4億2000万年前)の地層が分布しています。この地層の石灰岩にはサンゴやウミユリなど温暖な浅海に生息していたと推測される無脊椎動物化石が含まれています。それらの化石の一つにクサリサンゴがあることから地層ができた時代はシルル紀と判断することが出来ます。この深水川沿いのシルル紀の地層は赤道付近か南半球にあった陸地の一部がアジアの東側に移動してきたと考えられています。

クサリサンゴは古生代の浅海でサンゴ礁を構成する主要生物だった床板サンゴ類に属します。深水の石灰岩中からは、床板サンゴはクサリサンゴのほかハチノスサンゴが産出します。クサリサンゴは鎖の様に連結して群体を形成し、ハチノスサンゴは多角形の個体が群体を形成する姿が蜂の巣に似ています。クサリサンゴはオルドビス紀～シルル紀の間のみ生息し、ハチノスサンゴはシルル紀～デボン紀の間に繁栄したことが知られています。

松橋収蔵庫 収蔵品紹介②

地学

深水の浅海生化石を含む石灰岩



(上) 深水の石灰岩
(左下) クサリサンゴ
(右下) ハチノスサンゴ ※スケールバーは2cmを表す

松橋収蔵庫 収蔵品紹介③

生物

ハナシノブ

～熊本大学寄贈資料より～



熊本県を代表する風景の一つ、阿蘇の草原。ハナシノブ (*Polemonium kiushianum* Kitam.) は阿蘇地方の限られた地域にだけ自生する希少な植物です。ハナシノブ科の多年草で草丈は70～100 cm、葉は羽状に全裂し、6～7月頃青紫色の美しい花を咲かせます。和名のハナシノブは花の美しいシノブ(シダ植物のシノブ; 葉の



様子から)という意味だといわれています。写真の標本は今から約100年前の明治41年に採集されたものですが、状態もよくしっかりとその特徴を残しています。当時はまだ多くのハナシノブが自生したと考えられていますが、昭和30年代頃からの各種開発、野焼きの減少、草地改良などの自生地の環境変化、盗掘、近縁種との交雑などの人的影響など様々な要因で数を減らしています。現在熊本県はハナシノブを絶滅の恐れが非常に高い絶滅危惧ⅠA類に、また環境省も国内希少野生動植物種に指定し、絶滅から守る様々な保護対策を行っています。

フィールドミュージアム

へ飛び出そう！

＝2007年6月30日 潮だまりでタカラガイを探そう！レポート＝

6月30日、天草市牛深町枇杷首海岸で磯の生き物の観察会を開きました。この日の目的はなんといってもタカラガイ。参加者は、観察開始と同時に磯に散らばって、一生懸命貝を探しました。しかし、なかなか見つからない・・・ところが講師の方が石をひっくり返すとあら不思議、つぎからつぎへと、きれいなタカラガイ等、磯の生き物が見つかりました。見ていた参加者も、コツをつかんだのか次々と磯の生き物を発見！念願のタカラガイも発見することができました。

表面はツヤツヤ。いつもは膜で覆われているんだ。



ナツメタカラガイモドキ

タカラガイ、みつけた！



たくさんとれたよ！



フィールドミュージアム今後の予定

8月	28日 (火)	皆既月食を見よう 城南町 県民天文台にて 19:00 - 21:00
9月	9日 (日)	川原の石ころ図鑑をつくろう 氷川町 立神峡公園駐車場にて 10:00 - 12:30
	30日 (日)	野草ウォッチングⅡ － 秋の植物－ 宇城市 松橋収蔵庫にて 10:00 - 12:30
10月	14日 (日)	スパイダーウォッチング 玉名市 蛇ヶ谷公園にて 西側駐車場にて 10:00 - 12:30
	21日 (日)	ビーチコーミング －拾って集めて考える－ 天草市牛深町 茂串海岸にて 10:00 - 12:30

8月28日 皆既月食を見よう

－ 城南町 県民天文台にて 参加無料－

8月28日、城南町熊本県民天文台にて「皆既月食を見よう」を開催します。満月が地球の影にはいると月食になります。なかでも皆既月食とは、月が地球の影に入り、月面に太陽の光が少しも当たらない現象をいいます。今回は2001年以来の好条件がそろっています。満月が欠けながら昇る光景と一緒に眺めてみませんか。時間は19:00～21:00、定員は50名程度です。なお、小学生以上が対象ですが小中学生は保護者同伴です。参加ご希望の方は8月27日(月)までにお申し込みください。

お申し込み・お問い合わせは・

熊本県文化企画課博物館プロジェクト班



096-333-2155



096-381-9829



bunkakikaku@pref.kumamoto.lg.jp

※参加者の氏名・年齢・住所・ご連絡先・参加希望日をご連絡下さい。

お 気 軽 に ど う ぞ ！



ちよつとひといき



今回は植物の名前の話です。6月17日のフィールドミュージアムへ飛び出そう！～初夏の植物～は採集した植物に参加者が独自に名前を付ける催しでした。「白い太陽」「メダマオヤジ」（共にヒメジョオン）、「ハナビバナ」（コセンダングサ）など、なるほどと思わせる名前がどんどん出てきて、私達スタッフもその発想力と観察力に感心しきりでした。

しかし、ある植物を多くの人に伝える時には共通の名前が必要です。そのため

植物に限らず生物の名前には、世界共通の名前（学名）と日本での共通の名前（標準和名）があります。学名はラテン語で属名、種小名の順に並べて書きます。例えばシロツメクサの学名は *Trifolium repens* ですが、*Trifolium* は「三枚の葉」、*repens* は「這う」を意味します。標準和名のシロツメクサは、昔オランダ人がガラスの器を長崎へ運ぶ際、ガラスの器が割れないように隙間にこの草を詰めたからだと言われています。

名前を付けるには特徴をとらえることが大事という点では学名や和名でも同じなんですね。

松橋収蔵庫講師派遣事業のご紹介

熊本の自然や文化をもっと県民の皆様知って頂くために、生物、地質、歴史、民俗の講師を学校や地域へ派遣してます。豊富な収蔵資料を活かした他にはない活動が可能です。学校や地域での授業、講座、体験学習など利用してみたいとお考えの方はお気軽にお尋ねください。

また、本年度からは県下各地での収蔵資料の出前の展示もできるようになりました。こちらもお気軽にお問い合わせ下さい。



帯山小学校総合学習の時間
「プールの水生昆虫」



中央中学校総合学習の時間
「ふるさとウォークラリー」

山鹿小学校PTA活動

「飛ぶ種の秘密」

山鹿小学校1年生と保護者の皆さん約200名で、「空飛ぶ種の秘密」を探りました。



熱帯産のアルソミトラの種は、薄い羽根があってグライダーのように風に乗って遠くまで飛んでいきます。ラワンの種はくるくる回って落ちていきます。今回は、アルソミトラやラワン、カエデ、ニワウルシなど空飛ぶ種の模型を作って飛ばしてみました。活動を通して、植物が子孫を増やすためにさまざまな工夫をしていることを知ることができました。



熊本地域振興部文化企画課

松橋収蔵庫

◆定期購読出来ます◆

〒869-0524
熊本市宇城市松橋町豊福1695
TEL 0964-34-3301
FAX 0964-34-3302
最新号をメールでお届けいたします。ご希望の方はお名前を記入のうえ、松橋収蔵庫宛にメールをお送りください。(パソコンのみ)
bunkakikaku@pref.kumamoto.lg.jp

「熊本の自然と文化 松橋収蔵庫だより」は熊本県ホームページからもご覧いただけます。

編集・発行

熊本地域振興部文化企画課

熊本市水前寺6-18-1

096-333-2155

2007年11月1日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No 2

VOL. 1-2

収蔵庫収蔵品紹介④

動物

ベニオキナエビス

～切手になった貝～

Perotrochus hirasei (Pilsbry, 1903)



外海に面する天草西岸の海には、さまざまな海の生物がすんでいます。

ベニオキナエビスはその一つで、紅色の横帯が大変美しい貝です。以前発行されていた、4円切手の絵柄になっていました。国内では房総半島沖から沖縄の近海、国外では台湾、フィリピンの水深100m～300mの岩場に生息しているのが確認されています。中でも天草西岸沖でみられる個体は、紅色が美しく、珍重されています。写真の標本は直径が9.5cmで、大きい個体では12cm位になります。本種をふくめたオキナエビスの仲間は、水深100mよりも深い海の底に生息していて、水深600mでみられる種もあります。この標本は、偶然に漁師の網にかかったものです。

貝殻には横向きの切れ込みがありますが、割れたものではありません。これは呼吸を効果的にするための割れ目で、アワビの殻にあいている数個の穴と同じ働きをすると考えられています。これらは原始的な巻貝の特徴で、オキナエビスの仲間は、数億年前の古生代から生息している生きた化石なのです。

収蔵庫収蔵品紹介⑤

歴史

瀬井家所蔵資料「明治十年日記」

この資料は阿蘇郡高森町の瀬井家に伝わっていた明治10年（1877）の日記帳です。6.3 × 17 cmの携行サイズに和紙を綴じてあり、毛筆書きで几帳面な記録が残っています。日記をつけた人物甲斐有雄は高森町の尾下（おくだり）の人で、幕末から明治にかけて村の要職を務め、私費を投じて人々のために多くの道標を建てた功績で後に熊本県の近代文化功労者として顕彰されています。



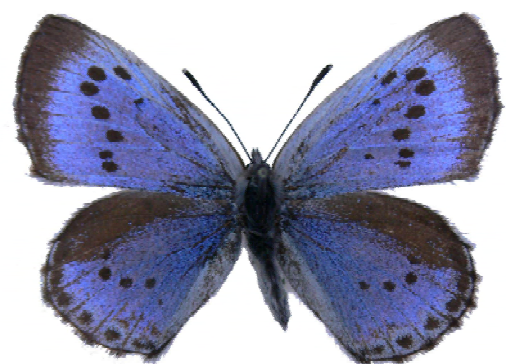
甲斐有雄が残した日記の中でも、この明治10年の日記は西南戦争に関する記述が多く、戦争による熊本市内の混乱の様子や、実際に明治政府軍の軍夫（荷物運びなどの後方支援をする人）として鹿児島まで従軍し、城山の陥落を見届けた時の様子など、甲斐有雄自身が現場で見聞したリアルなレポートが、時に絵図を交えて記されています。

この日記の一部は甲斐有雄自身がまとめた「肥の国軍物語」として以前から知られていましたが、日記の存在が確認されたことでその全容が明らかになりました。庶民が見た西南戦争を知る上でも得難い、貴重な資料です。

収蔵庫収蔵品紹介⑥

動物

オオルリシジミ

Shijimiaeoides divinus asonis (Matsumura, 1929)

♀

オオルリシジミは、草原性の2 cmくらいの小さいチョウです。九州の個体群は形質の差から九州亜種として、他の地域の個体群から区別されています。本州亜種は、ほとんどの生息地で個体数が激減、または絶滅しています。また、九州亜種がたくさん見られるのは阿蘇地域のみです。

本種の幼虫はマメ科のクララの花芽を食べて育ち、根元に移動してから蛹になり、そのまま冬を越します。蛹は高温に強く、野焼きの炎でもびくともしません。野焼きや放牧が行われず、草原の遷移が進むと、クララは、ススキを主とした背丈

の高い草に埋もれてしまい、枯れてしまうことが知られています。その結果、それを食草としている本種が減少したと考えられています。残念ながら、阿蘇地域でも、近年は牧野管理の放棄や別荘地の開発などで草地が少なくなり、個体数は減少しています。

現在、熊本県内では指定希少野生動植物に指定されており、傷ついたり採集したりすることが禁止されています。



フィールドミュージアムへ飛び出そう！

◆9月8日 「河原の石ころ図鑑を作ろう」レポート◆



八代郡氷川町立神峡で、河原の石の観察・整理という目的でフィールドミュージアムを行いました。

最初に、河原でいろいろな石を拾い集めます。その後、拾った石を色や模様ごとに分け、解説シートや講師の方などの説明をもとに名前付けをしました。

立神峡の河原の岩石は立神峡よりも上流の氷川やその支流沿いに分布している岩石で、川の流れによって立神峡まで運ばれて来たものです。自然の石のほかにレンガなどの人工の石も見られました。

今回の採集を行った河原で一番多く見られた堅い堆積岩であるチャートは火打石として有名です。そこで、河原で拾ったチャートと火打金をあてて火花を起こす体験も行いました。



火花がでるかな？

◆これからのフィールドミュージアム◆

〈 定員各30名 参加無料 〉

11月	12月	2月
4日 「樹木ウォッチング」 10:00～12:30 (宇城市 熊本県松橋収蔵庫)	2日 「かくれた化石をさがそう」 10:00～12:30 (宇城市 熊本県松橋収蔵庫)	17日 「植物の冬越しを調べよう」 10:00～12:30 (宇城市 熊本県松橋収蔵庫)
11日 「石の中に眠る昔の生き物たち」 13:00～16:00 (芦北町 肥薩おれんじ鉄道「佐々木駅」集合)	14日 「ふたご座流星群を見よう」 20:00～22:00 (城南町 熊本県民天文台)	3月
25日 「熊本の近代化遺産 万田坑」 10:00～12:30 (荒尾市 万田炭鉱館 集合)		9日 「宇土の殿様と轟泉水道」 10:00～12:30 (宇土市 轟水源集合)

ご案内

11月25日
熊本の近代文化遺産

万田坑

近代日本を支えた炭坑、万田坑には第二堅坑櫓などの建物が残り、国重要文化財にも指定されています。世界遺産を目指す熊本の文化遺産を訪ねてみませんか。

フィールドミュージアムへ飛び出そう

◆お申し込み・お問い合わせ◆

熊本県文化企画課博物館プロジェクト班

Tel 096-333-2155

Fax 096-381-9829

* 申し込み締め切りは開催前日です。(開催日が日曜日の場合は金曜日まで)

* 申し込みの際は参加者全員の氏名、年齢、住所、連絡先電話番号をお知らせください。

ちよっとひといき



今年は子年ということで、ネズミのお話です。日本には約20種類のネズミが生息しています。人家にはその中の主に3種類が出入りしており、6cm～9cmくらいの大きさのハツカネズミと15cm～25cmくらいの大きさのクマネズミ、ドブネズミです。

多くの動物が人間の活動によって数を減らしているのに、彼らは人間社会の生息環境に適応することに成功した、大変たくましい動物です。住み始めて2年になる私のアパートでも、ハツカネズミが出没

するようになりました。年賀状の写真にと思い、台所にカゴ罠を設置してみたのですが、エサを捕られてばかりで、なかなかうまくいきません。エサの付け方を工夫するなど、試行錯誤の末、設置から7日目の朝にようやく捕らえることができました。写真は後から撮ろうと籠に入れたまま出かけたのですが、帰ってみるともう姿はありません。どうやら脱走したようなのです。

その後は学習したのか、エサに食いつかなくなりました。向こうの方が一枚上手だったようです。

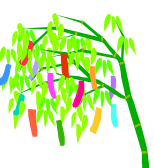


熊本の伝承文化を身近に

「くまもと 年中行事探求講座」開催中



松橋収蔵庫ではこれまで自然観察や歴史探訪を行う「フィールドミュージアムへ飛び出そう！」や子ども向けの体験学習を主とした「夏休みキッズミュージアム」など県民の皆様に熊本の自然や文化を学び、楽しむ催しを行ってきましたが、大人の方がじっくりと学ぶというような事業は行ってきませんでした。熊本の自然や文化について知りたいという多様なニーズに少しでも応えられるよう、大人向けの連続の講座があっても良いのではという声があり、手始めに「くまもと 年中行事探求講座 民俗調査入門」を11月から毎月第4土曜日の午後開催しています。現在約20名の方が参加され



ています。普段何気なく行っている年中行事を通して熊本の伝承文化を学び、探ろうという講座ですが、単に講義を聴くのではなく、毎回、受講者の方に自分の体験でも、人から聴いたことでも良いからその月の年中行事について発表してもらっています。講師役の職員も初めて聞くような興味深い話が一杯出てきて、有意義な時間になっています。ここで発表頂いたものをきちんとまとめて活字化できれば貴重な資料になると担当職員は当初想像していた以上の成果に期待で胸はふくらんでいます。

松橋収蔵庫ではこれからも熊本の自然や文化に関して様々な講座を開催していきたいと考えています。是非ご参加下さい。



熊本市地域振興部文化企画課

松橋収蔵庫

◆定期購読出来ます◆

〒869-0524
熊本市宇城市松橋町豊福1695
TEL 0964-34-3301
FAX 0964-34-3302
最新号をメールでお届けいたします。ご希望の方はお名前を記入のうえ、松橋収蔵庫宛にメールをお送りください。(パソコンのみ)
bunkakikaku@pref.kumamoto.lg.jp

「熊本の自然と文化 松橋収蔵庫だより」は熊本市ホームページからもご覧いただけます。

編集・発行

熊本市地域振興部文化企画課

熊本市水前寺6-18-1

096-333-2155

2008年2月1日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No 3

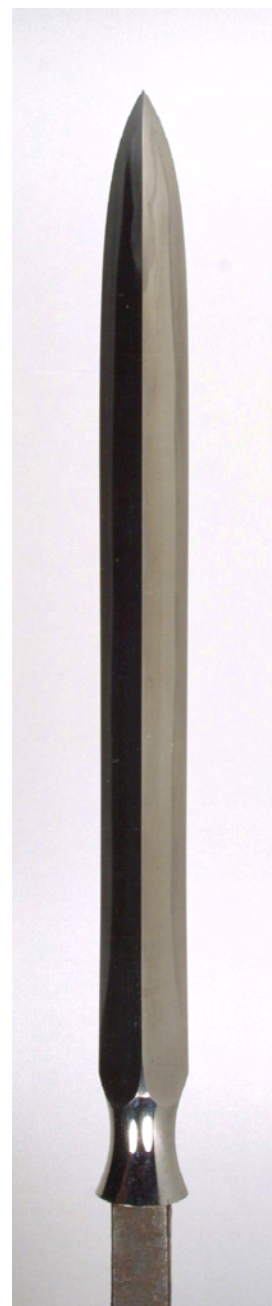
VOL. 1-3

歴史

収蔵庫収蔵品紹介 10

どうだぬきてつやり

同田貫鉄鍔



同田貫鉄鍔



高麗於釜山浦と刻まれた銘文

この資料は、阿蘇郡高森町の手島清士氏から寄贈されたばかりの新しい収蔵品です。

鍔を製作した同田貫派は、現在の玉名市辺りの刀鍛冶集団です。「折れず、曲がらず同田貫」といわれた実用に最適な刀や鍔は、加藤清正によって藩の武具として備えられました。その実用的で武張ったイメージが清正好みであったのかも知れません。

この資料の注目すべき点は、鍔の穂先を柄に差し込み固定する茎（なかご）という部分に「肥州住藤原頼國 文禄五年五月日」「高麗於釜山浦真野孫左衛門殿参遠山新兵衛」という銘が彫ってあるところです。この鍔が朝鮮出兵の時に作られたものと推定されます。

この鍔が伝えられていた手島家は士族で菊池市七城町に家がありましたが、元々は熊本市内に住んでいました。その手島家になぜこの鍔が伝わっていたのか、また、鍔に刻まれた真野孫左衛門や遠山新兵衛とはどのような人びとなのか、などこの鍔の謎はこれから解き明かしていくことになります。

いずれにしても高い資料的価値を持つものと思われます。これから調査、研究を進めると、たくさんの興味深いことを教えてくれるのではないかと期待しています。

地学

収蔵庫収蔵品紹介 11

竹葉石



じゃもんがん
蛇紋岩（かんらん岩というSiO₂の含有量が乏しい火成岩が変質してできた岩石）のなかに、白地に黒色の竹の葉が散ったような模様をもつものがあります。県内では宇城市松橋町から産出します。

見た目から竹の葉の化石が入った岩石とよく誤解されますが、竹の葉に見える黒色部分は化石ではなく主に柱や板の形状をしたかんらん石と細粒の磁鉄鉱（じゃもんせき）を含む蛇紋石という鉱物の結晶の集合体からなります。

この石は、その美しい模様から竹

葉石と呼ばれ、石碑や置物の石材としてよく利用されます。産地の松橋周辺では竹葉石を使用した石碑などが見られます。また、国会議事堂でも暖炉に松橋産の竹葉石が使用されています。



松橋収蔵庫にある石碑

植物

収蔵庫収蔵品紹介 12

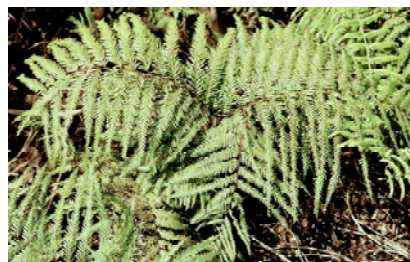
カネコシダ

(ウラジロ科)

Gleichenia laevissima H.Christ

お正月の飾り物によく使われるウラジロ（裏白）というシダはご存じでしょうか。そのウラジロと同じ仲間にカネコシダがあります。冬でも枯れない常緑性のシダで、ウラジロによく似ていますが葉は50～100センチでやや小型、葉の裏は白くなく黄緑色、細かく分かれた葉（羽片）の先はやや尖っています。日当たりの良い山地のやや乾燥した場所を好み、時にウラジロと混生します。このように生態も生育環境も形態もよく似た両者ですが、ウラジロが関東以南～九州で普通に見られるのに対し、カネコシダは産地が少なく、佐賀、長崎、大分、熊本、鹿児島でしか見つかっていません。熊本県では鹿北町や菊鹿町など数カ所の産地があり、鹿北町の自生地は特

定植物群落として保護されています。なお和名は「金子シダ」の意味で、佐賀県で初めて本種を採集した金子保平氏を記念したものです。



フィールドミュージアムへ飛び出そう！



◇これからのフィールドミュージアムのご案内◇

2月17日（日）

植物の冬越しを調べよう

集合場所：宇城市 熊本県松橋収蔵庫

冬になると植物は枯れてしまっているように見えますが、実はいろんな方法で厳しい冬を乗り切っています。一番寒い時期に、どんな工夫をしているか、身近な植物の冬越しの様子を観察しましょう。（小学生以上対象）



タンポポ



センダン

◆フィールドミュージアムへ飛び出そう お申し込み・お問い合わせ◆

熊本県文化企画課博物館プロジェクト班

Tel 096-333-2155

Fax 096-381-9829

3月9日（日）

宇土の殿様と轟泉水道

集合場所：宇土市 轟水源

熊本藩の支藩、宇土細川藩の初代藩主細川行孝が建設した轟泉水道は、全長5kmにも及びます。今でも使われる水道の歴史を訪ね、轟水源と藩主の墓地を巡ってみませんか。（中学生以上対象）



轟水源



細川行孝の墓

news! 学校への移動展示を始めました

松橋収蔵庫には県民の方々から寄贈していただいた資料が収蔵されています。これらの収蔵品を実際に見て身近な自然や先人たちの暮らしを少しでも感じていただこうと、昨年11月30日～12月13日の期間、宇城市立小川中学校で「触れよう！見つけよう！熊本の自然と文化」という題目で移動展示を行いました。

今回の移動展示では、地質・生物・歴史の内容ごとにそれぞれテーマを決めて展示を行いました。地質分野では「大地が生み出した鉱物」というテーマで、鉱物とはどのようなものかを見ていただくため、熊本県産の鉱物を中心に様々な鉱物を展示しまし

た。生物分野では「里山の生き物たち」という

テーマで、里山に生息する植物・動物、また里山と人間生活の関わりなどについて展示しました。歴史分野では「昔の人も勉強したぞ！」というテーマで、江戸時代～明治時代はじめての教科書や、実際数学の教科書に載っていた問題の紹介、昔の人が勉強の際使用していた物などの展示を行いました。



ちょっとひといき



近頃、とても気になっていることがあります。各メディアでも盛んに、とり上げられています「地球温暖化防止」についてです。たくさんの生き物や、自然の風景を未来のこどもたちに残していくことが、私たちおとなの責務だと思います。けれど自分が「身近なエコ活動」をしているかといえば、なかなかできていない状況です。

そんな時、ベランダでもできる、手軽なコンポストを手に入れました。ふたつき段ボール箱に、もみ殻くん炭、ピートモス等、

ホームセンターなどで簡単に手に入る園芸材料で、できています。そこへ生ゴミを入れ、混ぜます。数ヶ月後には堆肥になるそうです。毎日必ずゴミは出るのでこんな私でも続けられます。とても良いところは、臭いが無いことです。生魚の頭や、内臓など次のゴミ出し日まで、縛ったビニール袋の中からでも臭っていたのが、コンポストの中に投入したゴミからは、しないのです。それどころか土のなつかしい、いい匂いがします。ゴミ出しの回数も減りました。数ヶ月後、ホクホクの堆肥になっているのを楽しみにしています。そしてマイバック、省エネボール箱に、もみ殻くん炭、ピートモス等、



ミュージアムパートナーズクラブには、熊本県に居住または勤務されている熊本の自然や文化に興味がある方、博物館活動に興味がある方ならどなたでも参加できます。

熊本の自然や文化に関するさまざまな活動に気軽に参加してみませんか！

- 1 活動 みなさんの身の回りの地域の自然や文化について、簡単なアンケートを実施しますので、ご回答ください。また、松橋収蔵庫（宇城市松橋町豊福）などで行う様々な活動についても募集しますので、ぜひご参加ください。
ミュージアムパートナーとして参加される皆さまには、熊本の自然や文化についての情報や、イベントの情報をお知らせします。

- 2 募集 年間を通して、いつでも募集しています。詳しい申込方法等については、次の連絡先までお問い合わせください。

〒862-8570 熊本県熊本市水前寺6丁目18-1

熊本県 地域振興部 文化企画課 博物館プロジェクト班

TEL 096-333-2155 FAX 096-381-9829



熊本県地域振興部文化企画課

松橋収蔵庫

◆定期購読出来ます◆

〒869-0524
熊本県宇城市松橋町豊福1695
TEL 0964-34-3301
FAX 0964-34-3302

最新号をメールでお届けいたします。ご希望の方はお名前を記入のうえ、松橋収蔵庫宛にメールをお送りください。(パソコンのみ)
bunkakikaku@pref.kumamoto.lg.jp

「熊本の自然と文化 松橋収蔵庫だより」は熊本県ホームページからご覧いただけます。

編集・発行

熊本県地域振興部文化企画課

熊本市水前寺6-18-1

096-333-2155

2008年7月6日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.4

VOL. 2-1

◇収蔵庫だよりも創刊して今回で4回目（約1年目）を迎えます。今号でも5分野7品目をご紹介します。今回は創刊から通算17品目から巻頭は植物のヒゴスミレです。

収蔵庫収蔵品紹介 17

植物

ヒゴスミレ

Viola chaerophylloides (Regel) W.Becker
var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

（スミレ科）



多くの人はスミレといえば紫色の花とハート形の葉を思い浮かべます。ヒゴスミレはそのようなイメージとは異なり、花はやや小型の白色で、細かく切れ込みが入った葉はとても特徴的です。このような葉をもつ日本産のスミレはヒゴスミレのほかにはエイザンスミ

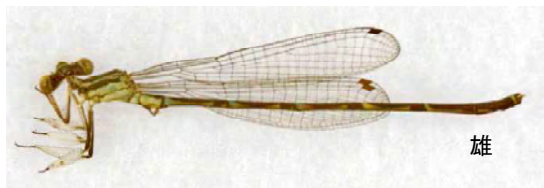
レだけで、ヒゴスミレは覚えやすいスミレのひとつです。

ヒゴスミレは本州から九州にかけて分布し、草原や林の中の明るい地面を好みます。阿蘇の原野では野焼き後の4月に開花期を迎えます。繊細な形の葉がひらき可憐な花が咲く様子は、一度見たら忘れられないものです。

写真の標本は、明治42年（1909）に現在の菊池市、深葉山で採集されたものです。この標本は約100年前に深葉山にヒゴスミレが生育していたという事実だけではなく、当時のヒゴスミレの姿を生き生きと現在に伝えています。この標本が収蔵されていた旧制第五高等学校は熊本大学の前身で、明治27年（1894）に第五高等中学校として設置され、昭和25年（1950）に新制熊本大学になりました。旧制第五高等学校に納められていた数多くの標本は、当時の自然を知ることができる貴重な研究資料となります。標本は自然の姿を未来に伝えるタイムカプセルなのです。

収蔵庫収蔵品紹介 18

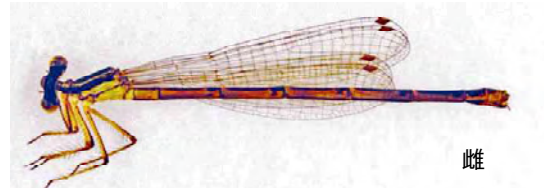
動物

グンバイトンボ *Platycnemis foliacea sasakii* Asahina, 1949 (トンボ目モノサシトンボ科)

雄



雄脛節の拡大写真



雌

トンボは雌雄で体色の異なる種が多いのですが、グンバイトンボは、体色だけでなく、体のある部分が雌雄で大きく異なります。雄(写真左)の肢に注目してみると、何か白い膜のようなものがついているのに気づきます。これは、肢の脛節が扁平化したもので、この広がった脛節を軍配に見立てたことからグンバイトンボという名前がつけました。ちなみに、扁平化しているのは中肢・後肢だけで、前肢は雌と同じ形状をしています。

雄は自分の縄張りに他の雄が侵入すると、ホバリングしながら軍配状の真っ白い脛節を大きく広げて相手を威嚇します。また、雌に出会ったときも、自慢の軍配を広げアピールします。このような行動から、軍配状の肢は雄が自分をより大きく、より優位にみせるのに役立っているのではないかと考えられます。主に丘陵地のゆるやかな清流に生息しており、県内では和木町で昭和28年(1953)に採集されたのが唯一の記録でしたが、近年、阿蘇周辺でも生息が確認されました。写真の標本は、平成4年(1992)に阿蘇郡で採集された個体です。このように、グンバイトンボの生息地は元来、極めて局所的なことに加え、河川開発などの影響により、全国的に個体数の減少が懸念されています。このような背景から、熊本県では絶滅危惧Ⅰ類に選定されています。

収蔵庫収蔵品紹介 19

民俗

みの
蓑

蓑は雨天時の外出や農作業に欠かせない雨具で、特に梅雨時期の代掻きや田植えなどで大活躍していました。この写真の蓑は上益城郡山都町で大正期に使われていたものです。長さ約1m20cm、幅約80cmで、表はチガヤを何層にも重ねて雨水の浸入を防ぎ、裏地には稲の小縄を細かく編み込んで着心地よく仕上げています。蓑の素材には稲藁やシュロなどが使われましたが、県内ではチガヤが多く用いられました。チガヤのことをミノカヤとかミノバと呼ぶところもあります。蓑の多くは着



る人が自分の体格に合わせて手作りしていました。この資料の蓑も使っていた人の手作りの品です。しかし中には菊池市出田の出田蓑など、ムラをあげて大々的に生産し、近隣の農具市などで特産品として売られるものもありました。蓑は『日本書紀』の中にも記述が見られる千年以上もの間使われてきた道具です。しかし戦後、より丈夫で手軽なビニール製の雨具が増え、姿を消してしまいました。

[夏休みの催し]

平成20年度 第1回 企画展示

『宇土の殿様と轟泉水道』

◇期間：平成20年7月19日(土)～8月29日(金)
午前10時30分～午後4時30分

◇場所：熊本県文化企画課松橋収蔵庫



※7/19(土)、7/20(日)、8/3(日)以外は原則平日のみ開催。
(土日でのご観覧のご要望があればご相談ください。)

熊本藩の支藩であった宇土藩の成り立ちと、初代藩主 細川行孝が建設した、轟泉水道について展示します。寛文3年(1663)に完成し、今でも使われている現役最古の江戸時代の水道が、どのように守られてきたのかを知る、よい機会になると思います。是非、お越しください。



キッズミュージアム



◇期日：平成20年 7月19日(土)～21日(月)

◇時間：午後1時～午後4時30分

◇場所：熊本県文化企画課松橋収蔵庫



松橋収蔵庫で、楽しく遊びながら自然や伝統文化、歴史などを体験する活動に参加しませんか。草木染め、恐竜クラフトづくりなど、小中学生を対象に実施します。定員になり次第参加者を締め切る活動がありますので、早めにお越しください。



日程は以下の通りです。

開催日	時間	午後1時～午後2時30分(受付は午後0時30分～)	午後3時～午後4時30分(受付は午後2時30分～)
7/19(土)		葉脈標本づくり 恐竜クラフト 火おこし体験	どんぐりクッキー 石のペンダント 空飛ぶ種
7/20(日)		昆虫採集 草木染め 泥団子づくり	昆虫標本づくり 石臼できなこ団子 泥団子づくり
7/21(月)		土器づくり 藍染めに挑戦 空飛ぶ種	草木遊び(ススキでバッタづくり) セミのぬけがら探し 火おこし体験

※活動によっては、材料費をいただくものがあります。

☆ 参加申し込み・お問い合わせ先 / 熊本県文化企画課博物館プロジェクト班

Tel 0963-333-2155 ・ FAX 096-381-9829

企画展、キッズミュージアム等詳しい内容は県庁ホームページやチラシでお知らせします

ちょっとひといき



先日、平成20年度第1回企画展示として「宇土の殿様と轟泉水道」の展示を実施しました。歴史担当として展示の準備にあたったのですが、市街地に残る轟泉水道の調査のため、数度に亘って宇土の市街地を歩き回りました。しかし、さすがに市街中心部では轟泉水道の樋管はアスファルトの下に潜っており、見ることは出来ません。それでも船場町、新小路町、本町1丁目などで共同井戸（跡）を

確認することが出来ました。

この調査では市街地を巡ると共に、付近の方々への聞き取り調査も行いました。すると、以前は共同井戸に近郊の村々からも水を汲みに来ていたこと、今はもう見られなくなった井戸跡の場所など、一見しただけでは分からない情報を得ることが出来ました。これは文献などからは伺い得ない、「記憶」や「思い出」の情報です。今回の調査を通して、改めて地域の文化とは史跡など形に残るものだけでなく、人々に記憶によって伝えられていくものなのだなと感じました。



『ちょっと昔のくらし探検』

◇期間：平成20年11月1日（土）～12月26日（金）
※11/1,11/3,11/15,11/22,11/23,11/24,11/29,12/20は開館
（上記以外の土・日・祝日は休館）

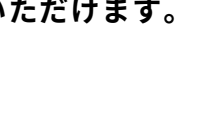
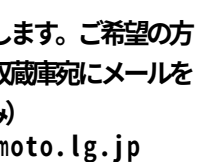
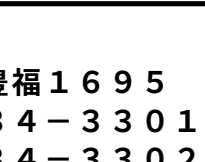
◇時間：午前10時30分～午後4時30分

◇場所：熊本県文化企画課 松橋収蔵庫

昭和30年代後半から40年代にかけての高度経済成長の下、機械化、電化が進みさらには、プラスチックなどの化学製品の普及により、日本人の暮らしは激変しました。このように短期間で日々の暮らしが変化するという事は、これまで日本人が経験したことが無いものでした。

今回の展示では水道、電化製品、ガス製品が普及する以前、台所が土間であった時代の炊事をテーマにした「御飯を炊くのも大変だ」、井戸で水を汲んでいた時代の洗濯やアイロン掛けをテーマにした「洗濯は井戸端で」、エアコンはもちろんストーブなどの暖房器具や電気の照明器具が無かった時代の暖房照明をテーマにした「より明るく、暖かく」、そしてそんな時代の正月などの行事をテーマにした「暮らしを彩る伝統行事」という4つのテーマでちょっと昔ではあたりまえの暮らし、でも今の子どもたちには想像も出来ない暮らしの様子を紹介します。

大人も子ども一緒に楽しんでいただければ幸いです。



熊本県地域振興部文化企画課

松橋収蔵庫

◆定期購読出来ます◆

〒869-0524

熊本県宇城市松橋町豊福1695

TEL 0964-34-3301

FAX 0964-34-3302

最新号をメールでお届けいたします。ご希望の方はお名前を記入のうえ、松橋収蔵庫宛にメールをお送りください。(パソコンのみ)
bunkakikaku@pref.kumamoto.lg.jp

「熊本の自然と文化 松橋収蔵庫だより」は熊本県ホームページからご覧いただけます。

編集・発行

熊本県地域振興部文化企画課

熊本市水前寺6-18-1

096-333-2155

2008年10月14日

熊本の自然と文化

松橋収蔵庫だより

No.5

VOL.2-2

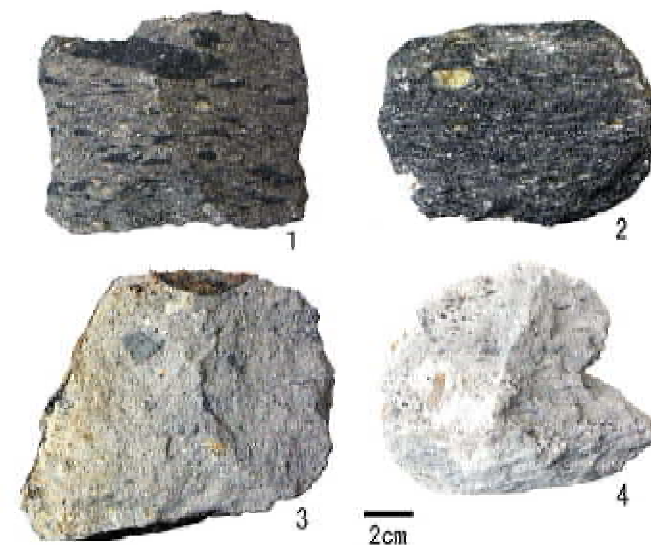
◇収蔵庫だよりも今回で5号目の発行となります。今回は24品目からの収蔵品の紹介です。

収蔵庫収蔵品24

地学

あそかさいりゅうたいせきぶつ
阿蘇火砕流堆積物

Aso pyroclastic flow deposit



現在の阿蘇カルデラは約30万年前からの火山活動により形成されました。この間に4回の大規模な噴火が起こり、これに伴い流出した火砕流堆積物は下位からAso-1(約27万年前)、Aso-2(約14万年前)、Aso-3(約12万年前)、Aso-4(約9万年前)に区分されています。阿蘇山から流出した火砕流堆積物は熊本県を中心に広い範囲で観察でき、特に最も分布の広いAso-4の堆積物は海を越えて天草、島原、山口県でも見られます。

火砕流堆積物は大きく分けると、主に火山灰と軽石からなる未固結の堆積物と、軽石やガラス質の火山灰などが高温と自重により溶けてくっつき合っている

ようけつぎょうかいがん
溶結凝灰岩があります。阿蘇火砕流堆積物の未固結の堆積物は阿蘇カルデラ周辺の火砕流台地で観察することができます。一方、溶結凝灰岩は火砕流堆積物が厚く堆積しやすい各地の谷の部分に分布しており、溶結の強弱によって岩相（見た目）が違ってきます。溶結が強い場合は黒色のガラスやつぶれた軽石などがみられます。

この阿蘇火砕流堆積物は私たちの暮らしに密接に関係しています。熊本市などの地下水は阿蘇火砕流堆積物が地下水の通り道である常水層となっています。また溶結凝灰岩は岩石の中では柔らかく加工しやすいため、昔から「阿蘇の灰石」と呼ばれ、石橋などの石材として使用されてきました。

(左上写真説明)

1. 阿蘇溶結凝灰岩 (Aso-1) 産地：菊池市伊野
2. 阿蘇溶結凝灰岩 (Aso-4) 産地：美里町三本松
3. 阿蘇溶結凝灰岩 (Aso-4) 産地：上天草市永浦
4. 阿蘇火砕流堆積物 (Aso-4) 中の軽石 産地：菊池市迫間



美里町 二俣橋

収蔵庫収蔵品紹介 25・26

民俗

みとうみ
箕と唐箕

箕は風の力で塵や屑などを吹き飛ばし、穀物の実を選び分ける道具です。写真の箕は昭和30年代まで熊本市河内町で使用されていたものです。縦に山桜の皮、横に細く裂いた蓬萊竹を合わせて編み、縁を2本のイヌビワの枝で挟んで葛で巻き付けてあります。開いた口の端から15cm くらいは表側に竹の表皮を向けて編むことで、先端の滑りを良くし、また弾力をつけ、穀類を効率よく跳ね上げ塵をはじき飛ばせるよう工夫されています。箕は竹細工の中でも高度な技術が必要で手作りでできなかったため、村々を回って来る箕職人から購入し、また何度も修理してもらい大事に使っていました。箕はまた、十五夜の月への供物入れや、正月の餅を飾るなど儀礼の中でも用いられ、農具の中でも特別なものであったと考えられます。

ところで、箕を使って上手に塵だけを飛ばすには穀物が空中で円を描くように動かしたり、煽りながら箕を左右に傾けるなど熟練した技が必要です。また一度に選別できる量はあまり多くありません。そこでより簡単に能率良く選別作業ができる農具が元(1279～1367)の頃の中国で発明され日本に伝わりました。それが唐箕です。

塵の混ざった穀物を漏斗状の入口から入れ、羽根板を時計回りに回転させて人工的に風を起こします。すると一番重い実の手前の口に落ち、やや軽い砕けた実や不熟実が二番目の口から落ち、一番軽い塵や屑は左方出口から吹き飛ばされる仕組みになっています。唐箕は江戸後期には熊本県内各地で使われていたようです。初期には地元の大工が製作して



箕



唐箕

いましたが、天保年間(1830～1844)創業の八代市植柳の和久田唐箕をはじめ、唐箕の普及とともに県内各地に唐箕専門の製作所が生まれました。写真の唐箕は昭和13年から昭和20年代まで宇城市豊野町で使われていた、上益城郡城南町隈庄の大西唐箕工場製のもので、鋼鉄製の調節器により漏斗から落ちる穀類の量を調節できるようになっています。

唐箕は戦後になると小型軽量のものやモーターの付いたものも使われるようになり、現在でも使われています。

フィールドミュージアムへ飛び出そう！
◇8月10日「夜の昆虫観察会」レポート

夜のやみへ、さあ、出発！

宇城市松橋収蔵庫周辺にて午後7時から午後9時まで、夜の昆虫採集に出かけました。

灯火採集では、ガムシ類や蛾などの光に集まる習性をもつ虫が観察できました。また、クヌギの木には、ヒラタクワガタやカナブンの仲間が集まって食事をしていました。

夜に活動する昆虫には、どんな種類がいるのか、どんな所にいるのか、どんな様子で過ごしているのか……。昼にはあじわえないドキドキ感と、さまざまな昆虫の生態を知ることができました。



灯火採集の様子

【これからの催し物のおしらせ】

フィールドミュージアムへ飛び出そう！の予定

- ◎「竹崎季長と塔福寺」 10月19日(日) 午前10時～正午 場所：宇城市 塔福寺
- ◎「金星と木星の競演を見よう！」 11月29日(土) 午後5時30分～午後8時 場所：城南町 熊本県民天文台
- ◎「大江天主堂とかくれキリシタンの歴史」 12月20日(土) 午後0時30分～午後2時30分 場所：天草市 大江天主堂



キッズミュージアム

◇期間：平成20年11月22日(土)～11月24日(月)
午後1時30分～午後4時30分

◇場所：熊本県文化企画課 松橋収蔵庫

先着順で当日受け付けます。
定員になり次第締めきります

プログラム

時間 期日	午後1時～午後2時30分 受付 午後1時～	午後3時～午後4時30分 受付 午後2時30分～
11/22 (土)	地中の生き物 恐竜クラフト 土器づくり	スパイダーウォッチング 石のペンダントづくり 火おこし体験
11/23 (日)	草花遊び 昆虫クラフト 草木染め	どんぐりクラフト 陸貝さがし 藍染めに挑戦
11/24 (月)	葉脈標本づくり 鉱物万華鏡 藍染めに挑戦	どんぐりクッキー 化石のレプリカ 石臼できなこ団子づくり

★参加申し込み・お問い合わせ先／熊本県文化企画課博物館プロジェクト班

TEL 096-333-2155 FAX 096-381-9829